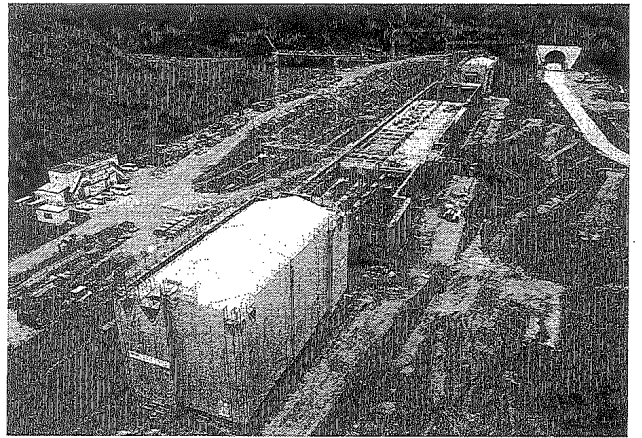


現場ルポ

北陸・中部・近畿



構造物の総延長は250㍍

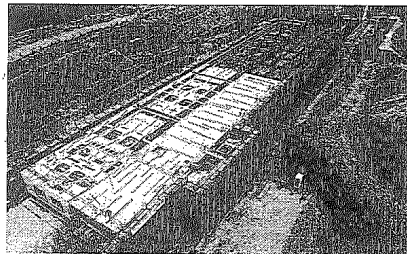
琵琶湖東北部浄化センター建設工事その35

大豊建設・明豊建設JV

北側資材置場からクレーンで搬入

滋賀県では、閉鎖性水域である琵琶湖の水質保全、特に富栄養化防止の観点から湖南中部、湖西、東北部、高島の4処理区からなる琵琶湖湖域下水道による下水道整備を進めている。汚水処理はいずれの処理場も高度処理を導入し、通常の有機物除去を中心とした処理に加え、窒素、リンの除去も実施している。2001年度以降の新設増設と改築更新から廃棄物添加メソフ流入式多段階脱窒法を採用し、さらなる窒素削減に努めている。

4処理区の中で、湖南中部は穴ヶ坂橋となる東北部処理区は、彦根市、長浜市を中心とする4市4町を対象としている。1991年4月に日量25000トンの処理能力で供用開始し、順次増設を進めてきた。2021年4月現在で、同処理区の処理能力は日量12万0



反応タンク1Fスラブ

750㍍。下水道事業の広域化や共同化が進められる中、幹線管渠の延伸に伴う流入水量の増加に対応するため、東北部浄化センターではA系列の増設工事に20年から着手している。建設用地が狭小なことから、最終沈殿池とろ過池が不要となる膜分離活性汚泥法(MBR)を採用した処理施設の整備を進めている。

増設工事は、滋賀県から日本下水道事業団が委託し「琵琶湖東北部浄化センター建設工事その35」を発注し進めている。同工事はA系列の水処理施設等の躯体部分を建設するもので、施工は大豊建設・明豊建設JVが担当している。

工事は21年8月に地盤改良工から着手し、土工の後、同年12月から送風機棟、膜洗浄送風機棟、反応タンクの躯体工事に着手した。その後、送風機棟2棟は7月に上棟し、反応タンクは8月に地下部分のコンクリート打設を完了させた。現在はMBR槽と最初沈殿池の躯体工事を進めている。12月からは埋戻し工事、年明けの2月からは上屋工事に入り、23年7月末までに工事を完了し、機械設備・電気設備工事に引き継ぎ予定。

今回の工事では、土木と建築、建築機械設備、電気電気設備の4工種からなり、最初沈殿池、反応タンク、MBR槽の地下部分は土木工事で、上屋と両サイドの送風機棟、膜洗浄送風機棟は建築工事である。このためそれぞれの資格を有した技術者を配置し、日々の作業内容を調整して、工事の円滑な進捗を図っている。

この現場の特徴として、構造物の総延長が約2500㍍と長く、鉄筋や型枠、足場等の仮設材は多量に必要だが、また、南側は国土交通省発注の米原バイパス工事に隣接しているため、北側の資材置場からボテインクレーン5台を使用し作業箇所に資材を搬入している。9月末時点の工事進捗率は約90%。(1)

まで無事故・無災害を継続している。福永忠宣日本下水道事業団近畿総合事務所滋賀事務所所長は「JISに依頼して良かった。満足してもらえよう。品質の高いものを工期内に安全につくり、引き渡すことに全力を尽くしたい。特に、品質面ではわいわい監督員ができる限り現場に足を運ぶ。高品質なものをつくりたい。この現場をサポートしたい」と語る。

■現場代理人のコメント
時政慎一現場代理人(大豊建設)「躯体工事の現場には開口部や高所作業での墜落リスクが多いため、今後安全で安心して働ける作業環境を整えて、全工期を無事故・無災害で完了したい。目標達成に向け、日々の作業では整理・整備・清掃・清潔・習慣の5Sの取り組みをしっかりと進めたい」と語る。

琵琶湖東北部浄化センター建設工事その35

大豊・明豊特定建設共同企業体



常務執行役員 浅田 潤一
支店長

T541-0059 大阪市中央区博労町2-2-13(大阪堺筋ビル)
電話(06)6105-0161



happy&hearty

株式会社明豊建設

代表取締役社長 山田 浩之

T526-0804 滋賀県長浜市加納町394
電話(0749)62-6580